

續像  
後警

山石見英雄錄

五輯

六

遠

2509

33-34





遠  
2609  
巻 35-34

復讐言山石見英雄録第五輯卷之六



南海 玉藻主人編次

金剛禪途中小厄の遇ふ

凶命郎月下に賊を屠依

紹前頭觀玄を情熟の与とと。三十助と豆平ふ親とりの云  
被て盃と与せし親と餽を餽へ。養娘ふとほよそ漏れあ  
ぬ。慣更し管待態の男女四名の主従よりら致びて吾二句  
彼一句語りつ笑ひつ。這や見ゆれは始りて。亂れ終りの酒のとが信が  
は意襟を披れ膝をくのけ。碁敵もいり。変化酒國の闘ひ。與  
爾ふありとられ。親玄を屢客店の婢ふ誂て美次を換下物を加て。  
東人態の大方ぬね。殿衛の這を推禁め。院主何とそや信

復讐言山石見英雄録第五輯卷之六



方寸を費しぬふぞや。然ていかに人の心をわづらひ。酒家にも倒に心慰む  
 由い何れ。且什麼緯をも圖て愁を拂ふ玉簪を喫せぬと不盡を  
 洗つて誘と薦めは。おん酒菜よ。這個男も名歌を詠せしと聞せ  
 ならん。那勢喰栖が歌々。酒家ホの听厭て珍し。後と院王のいん耳  
 むや尚初音ふもを侍れ。と酔る詞のまじりて。やよ屋三十助一首仕  
 りてとん笑ふ供へせや。と主の調も調子ふ系や。船の若ふ蕩揺く  
 膝をわし。鉄丸命畏みいと一宴沈吟す。めふれ系ム面貌繪馬  
 小肴惚々者。那う終に嘆換終一人も像するが忽ち二介の似り  
 顔に獨笑し。いかに最も憚り。あはれ。月光院さへ老爺代り  
 なるて。那う奉る心よ。任も付つていと鼻のあさりと春蝨う。傍の  
 摺扇を笏に執り。訛音昂く。揚て。石山の所寺を出て。雨の日

小月の光をみるぞ嬉しき。と嘯が如ふ口號を。観玄ハ傍肚痛く。听  
 了得耐ぬ笑を隠して。現に鶴喰栖生を歌仙をれ。貧道が短才者。  
 詩歌の上の知れ。侍をど。石山の所寺を出て。といふ。よ。本月の望を過  
 したる。本日のおとを會ませて。白晝といひ。雨中小月をみる。と。意外よ  
 出。這奇遇を。と。叔下の句。小月の光。と。貧道が院號を。會ひ直  
 きて。用ひらる。當意即妙々。案新奇といふ。為く。けみ。と。口信。と。養  
 せや。せ。三十助ハ。膝。と。び。額を。反。目。を。瞬。意氣揚々。と。て。四下  
 と。屢。額。れ。が。義。行。も。三十助ハ。和歌の本事。あ。の。を。形。と。せ。面。体。こ  
 へ。古。風。古。雅。ふ。と。俗。や。う。と。俺。丹。波。國。名。を。得。と。赤。酸。醬  
 にも。似。る。那。眼。の。圓。ある。よ。ム。頬。の。醉。といふ。赦。や。ある。今。世。の。赤  
 人。欽。真。の。猿。丸。大。丈。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。と。岩。瀑。と。侍。女。ハ



らあり。親去も豆平も奔一笑ひ哄堂々。有之程ふ義仍と岩瀑  
 へ親去を慰心せし一座の興を添んとて。侍女して客店の婢ふ囁へて  
 迹此比外國より渡り来て。快くも世人の玩ぶ三味線てふ東西と借  
 りて桑のムを那養娘ふ弾せも老の流の曲子を歌ひるよそ。  
 豆平もまこと嗜も技を奏せんと華洛四條河原の俳優の介を  
 擬真の像声と欲を試みの鳥よ乗して主僕とも量を忘れて飲  
 目も。狼藉は盃盤の軒の辣汁臭りてみそびとりどを甘か  
 くと天吐も出づれば似而非歌を自得歎け家三十助も豆平さふ潰爛  
 る許に酔ふれば義仍信と心着て。猛に威儀を引繕ひく。岩瀑  
 共侶親去よろち對ひ遮替ふ厚く東儲の謝をれば時々や下賄  
 とも是れ。たよ。形やる盃を藏奔かへと頻に催し請ふらん觀去もや

とくム妻は任せ那婢ふ碗碟を撒め運むを岩瀑へ養娘に  
 开救忙ふ援けしむ。三十助豆平あれとんく。飲食ともは牛馬ふも  
 男らぬ酒家們が骨慳して女中達をの煩しと役使んや。うち錯  
 酒家も兩個で運ぶと倭燈さる。岩瀑を吐嗟と許おし禁め兩名  
 とも酷く酔ふ源开運歩の階に。東西を運ぶの要ふれと亦も了  
 呵々と笑ふて奥さる。岩瀑の宜ふとぞ。咱家争何任許の酒は酔  
 程もゆるんや。と失口せば辰湯の叱りて。這を失後なり院主の賜を什  
 麼とも思ふ源若們が醉癖の輸慳ある工夫する。頭を昏んより。御  
 先をさかりて。快く次房へ袒て休ひ。といふ。啖大驚畏みて兩名  
 一齊親去ふ額衝て謝をせしめて。這方ふ對ひ。老公御奥さるも  
 緩々地ふ院主さぬとわん譚話あるべし。と暇乞つ次房へ逃るが像も



退りける。任せて親玄を尚書時義の譚り。が夕饌も向もあら  
 一と。海も碁をも圍まざりて。復明日も勝負を交せられと約  
 まで己が誦らひし。隣坐席の帝戸も隔ぬ心の親友侶の別れ惜げふ  
 義行も明日の酒家が東人まで。院主のおん便室へお一寄せ思ふ程  
 不致して本支を見し。侍らんと。配ぬ歌ぞと嫌ひぬひそと。諄復門  
 言りけり。侍人の癖ふみそ。次日の始り續けたる雨の脚のい川。膝べ  
 くも。ぬを。義行を倒し。幸する思ひ。朝餐。後階房  
 ふ釣り。親玄と時移るまで。棋を囲み。逆て歇店。囁かける酒  
 舖を。庖福の方より。運び来し。義行。心を用ひ。おられ。昨日  
 に。設られ。親玄の義行。対ひ。這を餘り。過分。歎待  
 痛入。侍り。昨日人。東人。貧道。飽て。飲食。崇よや。

剛才尚病醒の醒せ。侍れ。今日の若を喫て。清談を。おそ。思ふ。かれ。親  
 めを。左まれ。貧道。み。親玄。この。這。おん。設。内。君。と。始。め。親。伴  
 當違へも。薦め。ら。せ。し。と。頻。推。辞。と。展。湯。の。元。可。三。連。ひ。酒。の。ふ。ま。も  
 侍れ。然。思。へ。べ。今日。の。おん。弟。の。位。表。在。下。と。對。酌。を。徐。々。些。見。許。を  
 喫。之。素。譚。話。よ。て。心。寂。く。と。真。如。と。只。管。上。勸。免。て。止。は。れ。親。玄。も  
 然。ら。ぬ。好。意。を。破。る。も。心。を。べ。い。と。陸。表。の。小。酌。を。先。一。交。と。酌。を。盃  
 と。揚。て。人。交。も。只。只。只。個。あ。め。中。ふ。譚。ら。ひ。り。話。次。不。義。行。が。昨日  
 より。纏。り。冗。紛。て。俺。が。上。を。詳。説。も。出。け。り。一。の。言。失。後。不。侍。り。在。下  
 の。牧。野。辰。岡。義。行。と。喚。ぶ。丹。波。の。政。所。御。料。の。服。代。ム。甲。が。親。族。ふ  
 て。桑。田。郡。比。賀。江。の。里。に。住。ぬ。不。圖。も。值。偶。一。ま。あ。り。せ。て。任。交。り。侍。り。い  
 奇。き。縁。よ。こ。そ。い。れ。院。主。の。使。て。法。教。の。要。よ。て。都。お。上。り。お。あ。り。ぬ。



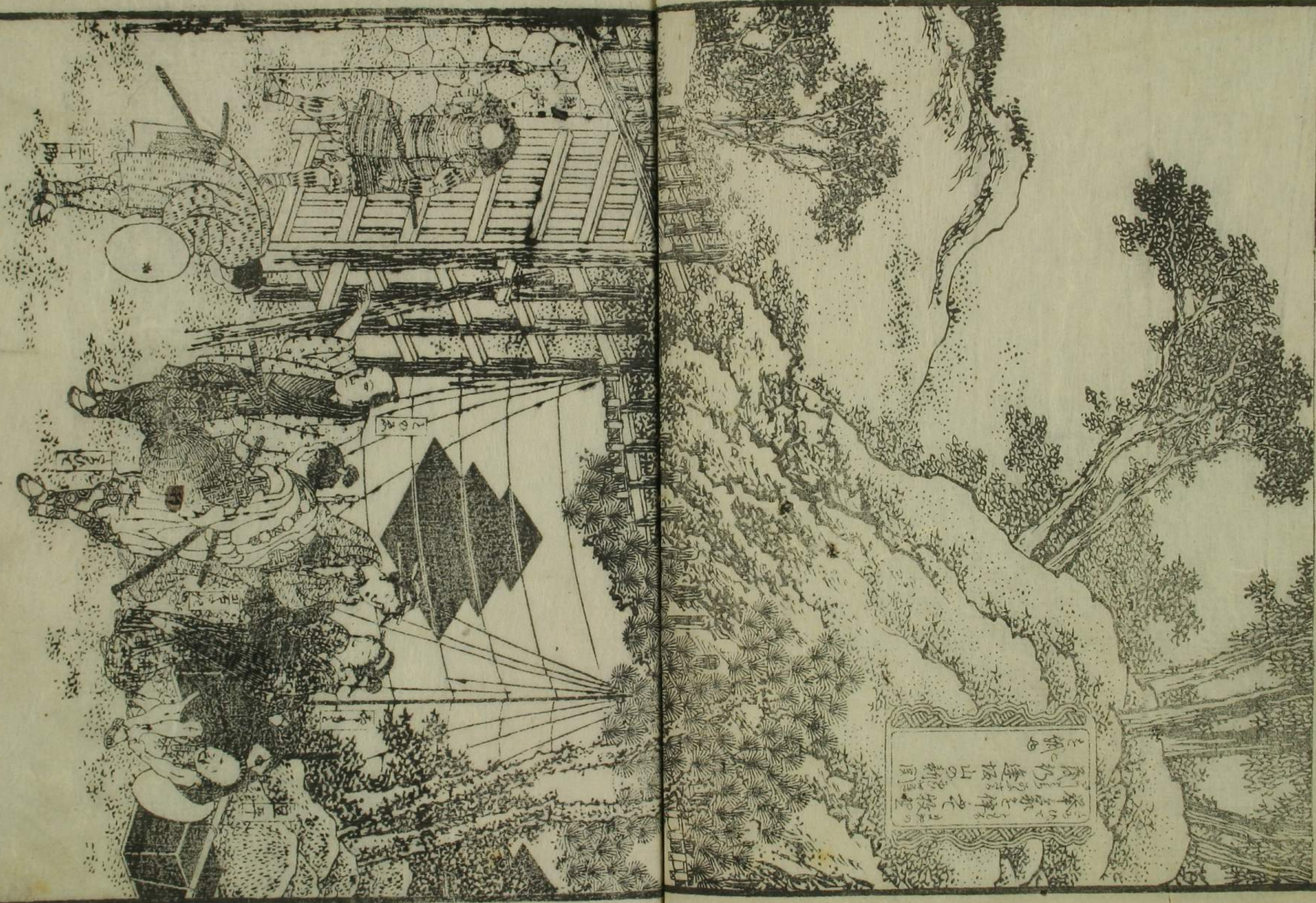
尚那知と久く逗留をなさずけり。遠くも何れも。俺家にも来り遊  
びぬ。私々といふは。觀玄へ深く并芳情を謝び。公の辱け。侍り貧乏  
都み然せ。家要いあり。縁ど。備前國へ赴くと。去る日。這里まで来りぬ。是  
ども。乃属美濃國王緒田氏。が室町殿の公子を守護して。上洛の結  
構ある風聲。ふよりて。都ある三好家の人々より。此下知として。大津に  
新聞を構られ。東國より来る征客を糾。於て武士ら者。の入洛を  
許可され。と听ぬ。這へ緒田家の間者を防ぐるべし。貧道を優婆  
塞。されども。大刀を帶ぐる。為よて。那國を通らん。は克ふま。這頭  
四。よて所縁相識の人あり。あふ。ム方より。確實な。文券を口呈せ。な  
拒障なく。通さるべし。と。這家の主人。が正首。は告示ぬ。な。石山寺  
の僧。ム甲の舊相識あるを。以て。尋ひ。仍し。折互。那僧の紀伊國  
高野。は。おたぬ。那地。よて。然許。逗留。も。休。だ。れ。ども。帰期。は。早。晩。とも  
听。せ。侍。り。と。苗。守。せ。侍。傍。の。い。ひ。り。る。ふ。力。なく。這。里。ふ。宿。り。て。紀。伊。國。より  
ム甲僧の。歸り。来る。日。を。等。ふ。侍。り。と。い。は。れ。ぬ。も。迷。惑。一。向。ふ  
不。樂。し。さ。查。し。ま。る。せ。ぬ。那。石。山。の。傍。ム甲。の。在。下。も。都。に。て。基。會  
の。席。上。よ。る。屢。出。會。一。相。識。ある。が。往。年。出。羽。ふ。赴。た。久。く。留。り。遊  
び。由。渡。られ。ぬ。然。心。院。主。り。并。時。候。より。馴。染。せ。ぬ。や。備。前。へ  
什麼。ある。要。よ。て。何。人。の。許。へ。仍。せ。ぬ。や。最。失。敬。小。似。され。ども。確  
如。形。る。緯。あ。ら。ば。義。仍。が。左。も。右。も。老。て。関。を。越。し。せ。稟。さん。ふ。とい。ふ。は  
親。去。喜。氣。滿。面。は。溢。れて。恁。許。情。ある。おん。為。ふ。深。く。慝。む。登。く。も  
あ。ら。び。世。小。恥。お。り。た。緯。を。れ。ども。今。へ。も。見。光。院。觀。玄。が。素。姓。を。バ  
實。を。り。て。告。事。あ。る。せん。と。声。う。ち。悄。めて。貧。道。を。り。播。州。室。津。の。産



よて浦上室二郎紀宗久と喚ばる者あるが、任々の緯に、幼年より  
出羽國よりありしが、今番また云々よて、俺の難を避け、二ッふ兄宗  
景の招よ心どて、備前國へ赴くあり。と、其示あると、半時許、傍の車  
の蓋を開けて、這ふん父の遺物よて、鍔扱ともある東西、何れも什  
麼やらん文書と、中々囊小容、短刀を示さふ人、我れも且驚た  
且感どて、然れば、初より、凡ゆる人、と、んけは、あせ、が、原東浦上  
家の令、身にて、座せし、よ、心、安、く、思、へ、俺、の、室、町、殿、の、眼、代、を  
がら、在下、を、牡、年、より、病、身、なる、を、以て、職、を、家、弟、に、譲、りて、仕、官、せ  
ど、仕、情、に、浮、き、遊、びて、屢、系、よ、も、在、一、甲、斐、小、世、外、の、間、見、ある、ゆ、に、  
都、人、も、よ、く、知、れ、て、傳、り、然、れ、ば、お、ん、の、を、義、行、が、親、族、あり、とも  
い、ひ、誘、へ、る、関、を、破、る、よ、仔、細、に、あ、ら、ど、と、語、り、慰、め、て、ふ、より、四、表、八、表、の

閑話、を、綴、り、ぬ、這、日、未、後、より、兩、止、て、天、も、や、暮、み、て、晴、み、れ、ば、大、家  
うち、喜、び、て、明、日、客、舎、を、出、け、る、よ、辰、湯、湯、行、る、山、右、邊、を、は、ど、免、  
三十、助、豆、平、養、娘、い、る、ほ、で、ふ、ほ、で、會、意、は、せ、觀、玄、を、伴、ふ、親、族  
あり、と、稱、へ、逢、阪、山、の、新、関、を、緯、り、多、う、通、り、輒、く、京、小、入、り、り、が、  
尚、二、三、日、の、洛、中、の、光、景、を、觀、玄、に、導、し、て、遊、び、銷、し、本、月、の、二、十、日、を、  
過、て、後、親、玄、共、侶、丹、波、を、俺、が、莊、院、よ、ぞ、帰、り、ら、ふ、は、旅、程、小、親、玄、  
い、厚、く、お、の、間、より、阮、會、を、被、け、謝、を、の、て、快、く、投、方、へ、卦、ん、と、告、別、け  
る、と、我、れ、も、放、ち、傳、せ、送、里、より、備、前、の、遠、く、も、あ、ら、ぬ、路、は、障、碍  
と、そ、も、お、け、せ、ば、何、日、お、せ、み、り、ん、も、隨、意、あり、然、や、ぞ、急、死、し、つ、る、や、あ、ら、  
一、回、別、を、ま、あ、ら、せ、せ、な、べ、再、會、を、ま、あ、ら、料、り、難、かり、今、ま、は、一、俺、家、に、逗  
留、あり、て、長、途、の、疲、を、醫、一、へ、と、理、を、く、家、小、抑、留、め、剛、才、の、悖





此の  
 山は  
 伏見  
 の  
 新  
 田  
 の  
 山  
 也  
 其  
 の  
 名  
 は  
 新  
 田  
 の  
 山  
 也  
 其  
 の  
 名  
 は  
 新  
 田  
 の  
 山  
 也



原由もあはし。何日までか。熊野にて居あふも及ぶ。故里への錦を衣  
 て帰居し。高野の武士も姿とも。復し。之と。恩顧。か。觀玄も。理ふ  
 いへて。是より。金剛。の。次女を。改めて。浦上。室次郎。宗久。と。稱する。  
 誰か。園。ん。個。室。二。郎。の。異。名。は。陸。奥。に。七。岩。見。重。太。郎。種。季。を。謀。り。て  
 園。園。の。中。の。窶。め。終。り。の。死。地。に。陥。ん。と。計。較。す。高。野。林。兵。衛。舉。豪  
 あり。什。麼。舉。豪。怎。り。て。修。驗。者。は。打。扮。て。牧。野。辰。清。を。欺。た。り  
 這。里。に。お。り。縁。由。を。諮。ね。よ。去。る。六。月。六。日。陸。奥。に。て。舉。豪。が。女。謀  
 發。露。て。黨。類。悉。く。捕。り。し。時。舉。豪。を。獨。り。邪。智。先。見。の。逞。り  
 一。府。に。お。り。竊。ふ。青。葉。山。に。潛。み。入。り。山。樵。を。詐。き。夾。み。て。為。せ。ら。せ。  
 人。知。ら。ぬ。間。道。の。山。又。山。を。分。け。り。下。野。國。二。荒。山。を。志。し。て。ぞ。り。ち  
 退。り。這。一。條。長。小。澤。生。の。著。任。心。り。や。ど。よ。四。五。日。の。間。人。跡。絶。る。深。山  
 幽。谷。鳥。路。熊。徑。を。辿。り。て。六。月。十。一。日。の。黃。昏。に。二。荒。山。の。邊。に。出。ぬ。れ  
 巴。那。道。の。案。内。せ。し。山。樵。共。侶。ふ。ム。夜。の。始。て。歇。店。に。宿。り。詰。朝。に。山。樵  
 に。別。れ。て。舉。豪。獨。那。里。を。あ。て。と。い。え。れ。ど。這。里。四。下。の。宇。都。宮。を。距。こ  
 と。遠。く。移。り。宇。都。宮。より。ハ。了。得。小。影。護。も。心。安。く。り。但。も。東。奥。に。て  
 の。俺。左。計。の。宇。都。宮。へ。聞。え。て。有。ん。も。料。り。匹。かり。然。り。く。て。も。異。名。は。俺  
 妻。及。び。婢。女。を。手。奴。し。て。阿。久。津。川。に。沈。め。し。久。い。此。條。に。掛。著。虚。々。と  
 野。澤。の。里。へ。歸。る。べ。く。も。何。く。比。盤。費。匱。し。死。め。よ。も。あ。り。移。り。方。才。より  
 上。國。に。上。り。て。身。の。便。着。を。講。ず。よ。如。ど。と。腹。に。問。腹。は。會。へ。主。張。既。に  
 交。り。し。口。管。西。南。を。志。し。捷。く。下。野。の。界。を。出。ん。り。の。徑。岐。道。を。の  
 順。逆。遠。近。に。拘。ら。ん。足。に。信。り。て。ゆく。程。に。次。の。日。に。武。藏。國。大。里。郡。の  
 熊。谷。隈。を。る。り。時。日。の。全。く。暮。し。し。甲。夜。月。を。使。り。し。急。死。する。去。向

幽谷鳥路熊徑を辿りて六月十一日の黄昏に二荒山の邊に出ぬれ  
 巴那道の案内せし山樵共侶ふム夜の始て歇店に宿り詰朝に山樵  
 に別れて舉豪獨那里をあてといえれども這里四下の宇都宮を距こ  
 と遠く移り宇都宮よりハ了得小影護も心安くり但も東奥にて  
 の俺左計の宇都宮へ聞えて有んも料り匹かり然りくても異名は俺  
 妻及び婢女を手奴しして阿久津川に沈めし久い此條に掛著虚々と  
 野澤の里へ歸るべくも何く比盤費匱し死めよもあり移り方才より  
 上國に上りて身の便着を講ずよ如どと腹に問腹は會へ主張既に  
 交りし口管西南を志し捷く下野の界を出んりの徑岐道をの  
 順逆遠近に拘らん足に信りてゆく程に次の日に武藏國大里郡の  
 熊谷隈をるり時日の全く暮しし甲夜月を使りし急死する去向



一 駭多の人声きて。大刀の鐔响最も峻く。听えし。怪し。や  
 前徑の旅客を劫せよ。又い宿意の闘詩。や寃てん。物蔭の  
 小暗処。よイみて。悄し。那方を信。とらる。天の月。若て隈多  
 照を結。縷草原。相貌克悪。大漢子八九名。明晃々。巨刀を  
 抜連。ひて。一個の金剛禪を。より。擁。四面より。競ひ。撃。那金剛禪  
 を。帯。する。大刀を。抜。り。や。六尺許の。錫杖を。輪々々と。輪揮。前後  
 小當り。左右を。支へ。怯。ま。ど。距。ぬ。武藝の。手。鍛。錬。も。肩を。挽。ぎ。笈を  
 せ。卸。も。罽。間。を。死。烈。し。拵。た。間。途。く。找。む。一。名。が。刃を。懸。墮。し。透  
 せ。錫杖。お。い。拿。延。兩。膝。薙。て。平。張。を。罽。間。を。得。り。と。右。左。り。斫。んと  
 逼。る。を。寄。せ。も。多。て。も。膳。を。拂。て。仰。向。し。反。張。せ。腸。撃。て。俯。走。り。富。く  
 兩名を。撻。悩。せ。ど。穴。窟。所。を。避。て。懲。り。し。意。り。知。ら。ぬ。暴。權。ホ。と。あり

一 無頼の悪黨。猶懲せよ。一個の敵。と侮。り。て。火。計。を。憑。み  
 勢。悍。く。敦。圍。吼。り。て。斬。て。蒐。る。を。修。驗。者。の。錫。杖。り。て。撃。つ。ひ  
 受。流。し。且。ら。く。防。だ。戦。ふ。り。う。膝。と。腕。小。輕。創。を。負。て。危。く。も  
 え。み。り。舉。豪。這。為。体。を。見。て。大。刀。の。鞆。釘。を。舐。潤。し  
 ぬ。れ。俺。め。り。同。一。旅。客。の。い。で。や。禍。を。襍。んと。大。刀。の。鞆。釘。を。舐。潤。し  
 須。乱。離。と。技。や。三。尺。の。霜。り。氷。り。夏。寒。の。刃。を。翳。て。猛。然。と。走。り。よ。り  
 声。高。く。死。生。不。知。の。草。賊。奴。輩。情。あ。る。旅。人。の。妨。害。し。て。得。難。だ  
 金。を。不。見。ん。より。俺。掌。中。の。刃。の。饒。味。喫。福。と。面。も。掉。り。殺。入。バ。駭。き  
 嗔。罵。賊。們。齊。一。声。を。ぬ。り。お。ぼ。り。噫。稀。有。稀。代。ある。和。郎。奴。の。恠。嗔。嗔  
 們。が。羽。筆。ふ。四。箱。す。雁。の。書。き。拵。れ。と。蜚。せ。ぬ。を。援。ふ。心。う。飛。入。る。  
 鳥。龜。の。這。奴。の。友。を。な。ら。ぬ。蝗。は。富。り。信。天。翁。秋。月。夜。は。漂。蕩。多。く



羈旅鴉形。些児の盤纏。然ぞみん没怪の幸。閑りの一所。野  
 野。驚よ。さて獲んと。昏。喋。て。撃。て。蒐。帰。を。擧。豪。這。を。物。と。り。せ。ば。  
 先。子。找。み。一。賊。を。韓。竹。破。斫。伏。る。本。事。を。見。れ。ど。も。怙。お。ぬ。牙。人。  
 火。計。の。寛。家。と。喚。り。て。四。五。名。一。齊。に。拳。豪。を。中。央。よ。う。量。て。劍。の。  
 電。光。汗。の。兩。將。水。を。流。し。て。殺。へ。ど。も。拳。豪。が。修。鍊。の。刀。陰。陽。虛。實。  
 一。上。一。下。と。手。を。竭。を。侮。り。巨。蛇。大。刀。風。ぬ。騷。ぐ。白。波。寄。せ。め。ひ。て。淺。痕。彼。  
 此。肩。より。あり。然。る。に。も。卷。振。さ。り。れ。り。當。々。く。も。何。れ。ば。這。方。の。  
 三。賊。彼。修。鍊。者。を。り。ち。捨。る。力。を。戮。せ。拳。豪。を。招。き。ん。と。せ。ぬ。家。  
 大。殺。一。場。月。は。映。ふ。八。口。の。白。刃。を。迎。へ。合。せ。一。拳。豪。が。又。一。名。を。斬。り。  
 一。尚。も。與。頭。て。輕。合。り。ど。に。磨。あ。ぶ。劍。稜。の。吉。ん。さ。く。津。女。一。か。り。り。  
 奮。激。突。戰。丁。々。般。と。鐔。响。も。間。あ。り。け。る。間。を。得。り。一。金。剛。禪。の。

手。快。く。髪。を。釋。卸。一。副。帶。を。辟。多。の。手。脚。の。金。劍。を。林。定。と。締。游。び。錫。杖。  
 杖。お。ひ。會。て。高。野。を。援。け。て。偷。児。ホ。を。縱。横。無。碍。に。撻。懲。せ。ば。拳。豪。弥。  
 勇。を。奮。ひ。し。と。叫。び。て。四。角。八。方。に。移。り。靡。け。一。個。賊。が。右。の。腕。を。助。り。け。  
 て。斫。て。墮。し。返。を。刃。ふ。左。手。の。賊。の。首。へ。撲。地。と。撲。け。ま。ゆ。落。て。砂。よ。ぞ。塗。土。  
 れ。り。存。残。る。五。賊。は。戰。慄。れ。て。逃。ん。と。せ。る。を。拳。豪。透。は。只。手。羅。り。に。  
 閃。一。閃。と。掃。へ。一。個。賊。若。と。一。声。叫。び。も。敵。は。刃。の。兩。段。に。斃。れ。る。屍。の。上。を。  
 踏。超。て。尚。も。趁。ん。と。せ。る。程。ふ。金。剛。禪。の。声。昂。中。は。呼。被。て。勇。士。苟。且。く。  
 留。り。ま。へ。千。金。の。誓。い。懸。鼠。の。為。ふ。發。ぞ。穴。窟。冠。の。這。べ。く。僅。小。三。四。個。乃。  
 殘。賊。們。洩。て。冠。を。か。せ。て。も。忘。れ。ど。の。緯。み。ん。う。ち。錯。て。這。方。へ。來。ませ。  
 救。厄。の。恩。を。謝。さ。り。い。つ。ま。で。り。あ。ら。ん。直。稟。試。み。さ。た。一。議。傳。り。と。い。ふ。も。拳。豪。  
 へ。志。と。侶。小。嚮。処。ふ。さ。ち。戻。れ。ば。金。剛。禪。の。恭。く。拳。豪。に。對。ひ。て。ゆ。り。り。形。を。



旅次の禍を極ひぬりし謝の言語の聲をよほはれど。つひ門も拳豪が  
左の股より流る鮮血を信とて。這ハ痲負せあふ。うち駭けハ拳豪  
も始めて疼痛を知覺し。伴と否。痲い。と軽くいへ。つひ修験者之餘  
談の閑に先快く金創を療。夏暑天の時候ハ大夏あり。貧道が恰好  
貯持ハ奇菜あり。和殿と侶。目今這里にて用んと。笈の中より一壺の靈  
丹を會出て。そ。附。掃枝りて。よ。何。ち。取。拳豪もす  
めて。元礼あれど。先ハ。二。船も跪居て。左の腕と右の膝頭を。裏  
。絹の括を釋て。恁。之。創上ハ那靈丹を塗らして。再ハ裏。結  
ぶ。ぞ。拳豪もす。謝をのべ。如右セ。ハ。快美も冷み。覺。て。血。心  
。流。り。出。ぞ。あり。ぬ。登。時。修。験。者。が。つ。ひ。り。中。這。首。ハ。恁。く。人。処。遠。く  
。前。徑。們。の。出。る。許。の。地。方。を。れ。ハ。和。殿。と。貧。乃。の。外。中。ハ。夜。路。を。た。は。

人いあらどと光れども。月明地方中。證話んハ不用意あり。小暗き  
物蔭ハ憑バ。遠方より四方を。鮮明ハ洞見て心安。卒。あ。お。さ。へ。と  
先。立。ち。始。先。拳。豪。が。在。る。地。方。を。括。て。引。く。拳。豪。も。後。方。に  
。跟。て。運。歩。ゆ。く。奇。を。哉。股。の。金。創。既。ハ。痛。楚。を。忘。る。小。像。さ。り。修  
。験。者。ハ。馳。て。拳。豪。と。何。ぞ。對。ひ。て。情。中。ハ。ハ。什。麼。和。殿。を。那。里。の。人  
。ハ。尋。常。の。旅。客。と。思。わ。れ。バ。又。那。武。者。修。験。の。人。も。見。え。ハ。通。武  
。者。の。高。傑。を。人。も。具。せ。バ。跨。躡。体。を。詠。け。是。送。ハ。度。て。流。れ  
。仔。細。も。ぬ。べ。貧。道。有。醫。を。う。も。釋。門。の。徒。が。れ。ハ。賊。を。さ。る。と。下  
。して。殺。せ。よ。忍。び。ば。方。才。の。拳。初。ハ。宋。襄。の。仁。も。似。る。癡。物。と。傳  
。士。ハ。あ。れ。を。笑。ふ。と。非。如。者。ハ。魔。の。利。劍。ハ。帶。さ。り。も。忍。辱。を  
。り。て。鏡。と。も。あ。も。我。徒。の。真。面。目。を。知。や。這。者。の。恩。人。ハ。仇。を。報。ふ





観  
去



観  
去

熊谷提督  
金剛の  
難と  
換く



心あらんや。好も死くも実を以て示し、わづらふが久しう願れまゐるは死  
 緯何く半臂の力を副稟さん。然而實道も亦慝みされ一議あり。  
 と人品骨格一曲あふべし。金剛禪の意ありけふ詢する心の底や甚麼  
 を、人量り刃まほし。濔標浪花江よ生ふありある秋や、や怎ふ春を。  
 速ふ春も、梔の花も実もある人あり。はと情実を明し、巨り。瞞せよ  
 若しと了得ふ大胆无敵の本性胸逞し。鬼百合の花や、やふ俯向  
 する頭を拾げ、胡意と屢嗟嘆。若て在下が薄命ある言ふ忍びぬ冤の  
 枉難あり。はれば今おん刃の慈眼よて、篤くも思ひ、憐意りて問せよ  
 に、ごも。尚暴白よ言を竭さぬを怪み、ひそ遮莫ム崖略を語ら、は  
 らん。在下ハ東奥の一諸侯仕へる。松島八百八景美と喚ゆ者ふは  
 が。異義ふ主君の使を養りて。南部よ却て日を、経る間、は佞臣們的寡

君も惑して。在下が荆妻を豪奪せん。と詐謀て後堂へ召入れ、  
 威の講の挑み逼られしを、悔嘆た、る荆妻ハ刃を伏て、自ら命を隕  
 せり。主君ハまじく累美を忌憎せられて、帰藩の日、小眾は陥れて。  
 誅せり。結構をば、地より直し、何首へも逃れて、身を全くせよ。と  
 弊藩あり。在下が兵法の門生、丙丁、丙三名より。悄悄、地は在下が客言  
 へ、腹心の者を、端人として。連署一通の密書、小副て、路費の助け、小抄  
 金流銀、銀十兩と、歩、贈り、る人の誠意を工夫、ふせ、ふあ、る、結ぶ。半  
 信半疑の心惑ひ、那地より、絆を、做して、帰り、来。路、は、旅宿の、小夜、文  
 潜び、入、る、檻、柙、兎、ありて。在下が、睡、着、を、窺、ひ、刺、んと、せ、を、起、合、せ、て  
 破、作、の、屍、骸、を、檢、め、面、を、裏、み、し、白、巾、兎、を、檢、り、て、見、る、小、寡、君  
 の、嬖、臣、ム、乙、と、く、異、義、は、君、よ、存、心、漏、心、て、京、美、が、妻、を、豪、奪、せ、し、隨、入



ありと門生們が書中小録多者なき。創ム懐ふハ景美が使命を奉こ  
接収歸る回翰をこも竊み藏し。原來在下を路小殺して草賊の  
所為を推托然あく。使節の公事を等閑ふして緊要の東西をも  
奪略せしと罪として誅せられん。の計策疑ふ所なれば進退粵ふ存る  
りのろ。自ら死地を歩む。そのいぬ者死ふて其打惜し。遠く他邦を走り  
て身を立家と與らん。そ。父祖の名をりも取らぬ。孝なれぬ。ひ。う。を  
伴當ホも露露知る。草刈りて凶命せ。次日は左ある申明亭に  
こや。系。矢。骨相訪。簞を掲示。われ。を。見。て。路。を。轉。て。山。分。入。り  
昼。の。潜。み。夜。艾。の。歩。み。飢。渴。艱。難。数。日。ゆ。て。這。首。小。創。れ。る。俺。身。上  
話。も。面。に。綻。れ。け。り。と。実。者。や。小。説。騙。れ。う。ち。蕭。然。と。容。を。陽。ふ  
示。して。も。倘。や。伊。達。宇。都。宮。を。ど。り。俺。を。穿。鑿。密。張。孔。目。を  
あ。ろ。ぞ。や。と。思。へ。ば。毫。も。解。情。せ。ば。容。子。は。憑。て。ハ。一。刀。の。月。の。縮。と。做。難。ん。  
と。手。柄。膏。引。て。土。居。し。り。

虎狼の餘袂豚犬を延く

拳豪が大欲宗久を殺せ

登時金剛禪を數回嘆息し。擧豪を左見右見て。ひける。ち。於。嶋  
八百八郎。と。敬。和。殿。が。方。才。の。自。家。的。話。の。古。の。安。達。景。盛。が。う。へ。も。同。じ。  
時の不祥。ふ。遭。れ。る。痛。す。所。匪。邪。を。か。み。比。べ。て。も。思。ひ。き。れ。窮。阨  
い。和。殿。一。個。の。上。り。て。世。ふ。い。よ。も。恚。相。像。と。緋。も。あ。る。身。の。う。か。抑。和。殿  
が。自。家。的。名。を。告。示。は。れ。て。も。仕。へ。地。方。ハ。那。首。と。い。は。れ。ぬ。情。を。猜。せ。る  
ふ。非。除。无。道。の。君。之。と。も。臣。と。う。り。身。の。ム。名。を。斥。て。い。ふ。よ。心。ひ。ぬ。主。心。操  
を。名。優。れ。れ。奥。を。雙。大。國。よ。り。方。今。我。國。の。習。俗。と。て。合。後。連。衛



一あり。棋布星羅とて大小の諸侯十三四家及びぬれむ和殿の侍ら  
らる。那をんと知る由なれど。葛西殿をん大崎の館あり。せむ。  
石川殿をんとぬく。あるべた。歎。遮。莫。ム。い。遠。方。小。要。を。は。縛。ある。と。語。  
極む。は。該。い。あ。ら。だ。は。備。上。を。話。り。は。ら。ん。と。四。下。を。信。と。う。ち。見。  
れ。は。冴。る。月。小。光。幽。き。螢。より。外。鳴。く。虫。も。あ。は。夏。の。夜。ふ。鑄。々。と。  
熊谷寺の初夜に鐘風のまよふ響あり。

編者俄然として筆を停て曰。曩々本書第二編は粗當時奥地の  
列藩諸將を録し。挙ねれども。管見寡聞なる庸陋の筆に送漏  
あり。ふ。あ。は。れ。は。重。移。て。奥。に。説。出。し。て。あ。れ。を。補。ん。と。せ。本。文。小。し。は。  
十三四家と。即ち白川結石川。岩城相馬。葦名二階堂。二本松山。  
田村伊達。葛西大崎斯和。賀南。部行岳。御所北。亦あり。是。は。く。足。

利家の季世永祿より後。壞亂極りて。天下革命の氣運。ふ。振。ゆ。の。  
時。な。れ。は。諸。家。の。盛。衰。興。亡。そ。の。勢。定。ら。ば。と。と。波。瀾。の。若。し。ム。米。地。封。  
疆。の。犬。牙。と。増。減。沿。革。の。多。寡。上。國。近。畿。と。い。ども。ム。大。槩。を。知。  
の。と。ゆ。く。詳。し。是。を。窺。ひ。難。し。知。奥。羽。の。如。は。僻。遠。廣。大。の。地。に。於。て。や。  
左。は。見。は。せ。二。三。の。侯。家。も。开。提。封。の。多。寡。の。鎌。倉。室。町。の。幕。府。より。賜。  
り。る。本。領。あり。行。岳。殿。と。大。崎。二。本。松。の。三。家。は。南。北。朝。の。時。より。の。新。國。ふ。  
して。开。餘。の。皆。録。倉。幕。府。の。時。より。の。舊。族。より。と。い。ふ。べ。し。  
○葛西刑部大輔平朝臣晴信の牡鹿郡石巻の城主。陸奥の名家  
あり。石巻城の門。服村好日山の所。あり。今の好日山。膽澤。船。若。井。牡。鹿。三。郡。の。田。二。  
千。六。百。七。十。九。町。十。一。萬。三。百。七。十。貫。文。獲。稻。百。八。十。三。萬。九。千。束。よ。り。て。地。頭。  
と。して。四。萬。二。千。三。百。五。十。餘。石。五。千。八。百。八。十。九。箇。餘。あり。の。世。祿。を。領。し。



石巻郡本吉 石巻郡 折立 戸澤 登米郡上泊 石巻郡  
 本吉郡本吉 四里餘 折立 二里 戸澤 二里 登米郡上泊 二里餘  
 あどの支城と有てり。ム世系ハ高望王の男村岡五郎良文より十  
 世の孫平清重 葛西二郡 右兵衛尉 陸奥三郡の地頭職を賜り 文治五年ハ  
 石巻の城に居り。清時 親左衛門尉 清貞 三郎兵衛 親信 治部  
 親家 左近 晴親 刑部 持信 伯耆 政親 左近持監 親宗 刑部大輔 實  
 親信 治部 其の子這晴信よりて十二世なり。姉女清重を鎌倉右大将  
 頼朝卿より。奥の三郡を賜る由ハ東鑑に見えて平泉郡内檢非違使  
 所の事を命せらる。とあれ。合せて四郡を支配せしめて。晴信の子  
 を總十郎晴時と云ふ。天正十八年よりて。惜むべし。四百二年の故家を  
 一朝に滅びたり。

○大崎左衛門督從四位左少將源義隆朝臣ハ斯波郡大崎

十一里の城主より。斯波般石手二郡小散在の田千七百五十町。小の  
 下総國香取郡の田九百四十三町を合せて二千六百九十三町。八萬七百  
 九十貫文 獲稻百三十四町。六千八百石。米六萬七千  
 一千餘石の石領。陸奥下総の守護職料を收納せり。  
 ○石川修理大夫兼伊勢守後四位下源晴光朝臣ハ石川郡  
 石川 備倉より。の城主にして。同姓郡有。朝川 石川より。赤館 石川より。の支城  
 を有ち。石川郡一園小田村磐瀬磐前等四郡の本領二千四百餘  
 町。十萬二千貫文。獲稻百七十町。米八萬五千石。の地頭として。三萬九千  
 百五十餘石。四年ハの草苧九萬七千。を領せり。ム家系ハ。田滿仲の二子右馬  
 頭頼親 大和源氏 より出て。頼遠 石川二郡と稱す。有光 石川冠者 其光 三郎  
 光義 石川澤田太郎 義季 石川三郎 廣季 小二郎 光貞 小太郎 光長



大郎四郎 光盛 盛義 家光 時光 官内少輔

足利尊氏 貞光 美作守 義光 七郎 建武三年七月戦死 詮持 中務少輔

滿朝 大和守 滿朝が妹の岩波の二階堂氏の室 義光 駿河守 持光 孫三郎 中務少輔

宗光 治部少輔 成光 中務大輔 高光 治部大輔 植光 駿河守 相續き

て晴光ふ及ぶ。始め石川三郎基光鎌倉將軍頼朝卿の奥州

藤原泰衡を征伐の時後を戦功ありければ本國石川郡の地頭

補せられしより子孫お継て爰ふ任しぬ宮内少輔時光 基光よりあり 是

利尊氏卿ふ従ひ建武中兵の勲功ふ本領新恩ともふ安堵の

濟教書を賜りて奥州一方の探題たれば舟尾赤坂の諸士

与力とありし。伊勢守晴光朝臣伊達左京大夫晴宗 晴宗の

子を婿として家を譲る。大和守昭光即是あり。はれば基光より

九一世より源氏の血脉絶て藤原ふ爰れり。昭光天正八年しり。

志田郡松山ふ移り。慶長二年伊具郡ふ移りて卒り其子遠

江守義宗角田ふ移るとり。義宗の子石川大和宗私ととり。

抑是等の考索の本丈は關係せる要り多し。肖されども筆の序

ふ冗長あるを歎けず。て贅考するは我嗜むと多しを衆し及ぶを一片

の老婆心ありて亦那左傳癖の流亞あるべし。

恁て金剛禪ハ尚も声を悄めり。貧道をて出羽國羽黒にあり。月光

院の觀玄といふ修驗者あり。原の俗稱ハ浦上空二郎宗久と呼れり。

備前の國主浦上帶刀左衛門尉紀宗日宗 備前和氣郡佐伯 弟ふ信り

烏嶺ふれど浦上へ大納言紀長谷雄より出て俺兄宗景を十八世

の後胤あり。赤松家後裔播磨美作の三國ふ主より。時より。幟旗下







竊て冤屈の枉難を避て外視を憚り、縁由の謀々も聞き  
 松這いと恥ぢる死縁あり。俺父浦上掃部介村宗の初め備前國  
 和氣郡三石山を居城して。播州揖保郡後世は揖保室津別野あり  
 一國と云。素百合と呼は一個の妾を置いて軍旅の違ある毎ふ那処は往  
 きて山水の佳系、目を悦び、留り遊きて、享祿三年の九月、男  
 子を生む。名をいふ地方の名ふありて、室丸と乳字せし。是即貧道あり。  
 然るに兄宗景の母の父の正室にて心飽まじ、悍く嫉妬の憤怨を釋由  
 かり、五年の二月の時候、俺生母ある妻、暇をばて所縁を憑  
 て、故里へ嬰兒ある貧乃共侶、十餘名の家隸們を、送らせぬ。此れ  
 這の父子の因を絶ふあり。權且仲州は在て時を待ち成人て歸來  
 よ。とて兄宗景も能知。傳家の重寶、小蛭丸と銘號け、短刀は父が手

親書写す。親子の照書は浦上室二郎及と的稱ある。と系圖譜牒  
 の写本一卷を副て授与せられ、個見元服せ、室二郎宗久と名告せし。  
 成人とあるまで、能く弓馬の技を學ばせて、他家は仕を干め、必ず本  
 貫へ歸り來、松這と与次郎宗景が開時の字あり。よも快く村宗が、悄悄地は諭示  
 ぬれ、久後憑く思ひ絲と父が口が、母素百合は、おれいとを、信て  
 母の貧乃を推して出羽國へ歸り、平鹿郡の一城主、横手佐渡守の  
 所縁あるを、以て那方を憑み、父が賜ひ、黄白鬚髪ぬれば、迹き四下  
 みて、田宅を需り、奴婢を買ひ、送の人を帰し、六年六月、父村宗  
 を、果敢、戦没あり。此れ亂世、数百里を隔、哀、程、經て、後  
 ふ、父、え、信て、貧道、元服の時、室丸を改めて、室二郎宗久と名告  
 り、功ありて、故郷へ歸るべくも、あらず。横手が、情、師を撰みて、弓馬



の技兵法の書を年属學て俺年齡も二十有三ありある天文二十一月七月

六月小野寺中宮亮藤原輝道羽州旗勝郡が横手の城を攻め時姍

族の好みりて横手の城に馳加り。敵の大將輝道を遠箭あぐるも

射て隊士を寄隊に大に敗績して横手へ運を閉たる喜の餘は

酒家も對ひていひけりやう。おんめい俺家臣も非れば无礼も勲状と

進せ巨り。遮莫和殿の功を後來子孫に傳ふる照書もいふ

とて。緯詳悉に録して厚く謝とのべる書札も干家世々相傳せる國

柄の大刀一口を贈られ。信ても尚嫌ぢや。馬の飼料もあふと若干

貫の采地を贈ふとして。目錄を写録んとせられ。むの備前へ歸參の

拒障なれば。負乃あれを推辞て。文以況て輝道を宗久が射殺せし

を。深く秘して。所内の人にも听せしむ。そと口禁もせぬ。ゆるる。後にも

病の母も拘ひて志を遂も得。年賜。経由る。小野寺輝道が嫡子

ある。四郎九隣郡の由利を託みて。旗を揚げ。殘黨を懲り。遠江守景

道と名告り。仙北の舊領を収復し。終ふ。横手を亡し。尚ム所縁を

追捕嚴重あり。俺家は年久く役使する。若黨の田面石力助が正

首は諫る。小隨せ。病臥する。老母を助けて。力助が故里に。飽海郡

岡は。潛み存り。生活の与ふ。兵法武藝を人へ教授て。先え。代年を

母の病は。稍瘥れども。けり。とて。長途の旅。行は。伴ん。八車馬。よても。克ん

バ工夫。月日を銷りし。小莊内の領主。大梵字。或は。大室寺。の館。晴親。ぬし。

晴親。武藤。勅九郎。と。称も。羽州。田川。飽海。二郡。十八萬。石。名を。听も。及。な。れて。厚。録

九千貫の地。許して。後。五位。下。左。京。大夫。兼。左。衛。門。督。時。子。を。以。て。招。き。り。と。再。三。再。四。あり。る。を。固。く。推。辞。み。家。は。病。る。母。の。い。へ。

仕官の。おと。目。今。の。御。免。を。賜。ふ。べし。と。て。却。る。む。信。々。去。年。の。肆。月。の。中。院



母い果敢多く率りける憂苦も俺も病臥する折りあそおれ兄宗系が  
 密使の武士兩個伴當通て十名許俺を詢して出羽ふ来り女子の  
 日子を思ふるまで始母の不樂なるが浦上室二郎宿所と書し一  
 標札を認て呼門来りり然りけれども憂も沈み心地は惱まて極  
 も掃ぬ病床まで對面志くもあつね力助して這由を使者も告もあつ  
 教待せせらるる那使者が遞与せ東西を提接て持来りるを重た  
 頭をやと拾げて書函ある手簡の封皮を披閱バ始ふ兄弟相思る  
 の情を思未段は直家が叛逆を告示されて信を宗久國へ歸り香々  
 登和氣郡依前州の城主として憂苦を鎮壓の大將とす。後て旅行の用度  
 金として贈り遣りるなり。と三百餘兩を副られり。速莫丁憂の重病  
 子筆會ふるとも懶けを力助し合を考はせて那横子佐渡守が賜わ係

書札を國約の大刀共侶より料理て兄の貳書札をど確は接し  
 他日の照抄して使者は遞与し病癒りる直に歸參して拜謁仕る  
 べ。と傳へて歸りて。將息して為い健ありり。尚電  
 居一母の喪の忌闋も快一日よぞあり。よるム夜艾寢も寐られぬ。交牌  
 時候正門に懸交の燈し。門戸を好く碎くもの响の烈しき。那正首兒  
 の田面石力助に強人ありと思ひ。去園より起出て声昂中。小儲畜も  
 一は退録人なり。武術兵書の指南家ある。吾主の庭前。泥散躰入  
 一汝ホハ今生よ飽る偷兒あると言せも果は稠入る中。ふも一個の頭  
 人の嗔の猛者声暴らげて。這ハ奇怪なる草賊呼り。わ出處不定なる  
 寒瘦浮浪人が願ふても得がさ。拔擢の恩命を屢推辞を。會  
 意回く思せ。ふ途属見慣ぬ征装束せ。武士駭交。汝が宅に訪来



一。このよみて首訴せしめり。のりる。ほごの館武藤晴親。かん怒はよく。聽得  
 這奴敵国の同者なれ。快くお寄せて有。元を言せ。殺獲来れ。の御  
 謀。奉。在下。大梵字殿の御内。隠れ。お。十々郡。弥珍。太。舎。明。が  
 隊兵と。將。て。向。つ。兵。們。蒐。ま。と。令。の。下。より。隊。兵。も。先。と。争。ひ。散。動  
 々々と。玄。関。口。の。找。み。来。る。を。入。れ。立。下。と。忠。義。の。惴。り。雄。力。助。の。大。刀。抜  
 合。せ。て。將。拂。ひ。斫。麻。け。必。死。を。受。め。一。酷。烈。な。刀。尖。一。宴。の。防。死。闘。争。同。よ  
 宗。久。の。那。三。種。の。父。が。紀。念。の。兄。宗。景。の。書。簡。及。び。般。盤。纏。の。金。銀。を。懐  
 中。に。力。助。の。力。を。戮。せ。共。侶。小。斬。脱。て。奔。ん。あ。ま。甲。斐。の。田。面。石。を。敵  
 二。三。名。を。斫。伏。て。ム。躬。も。遂。に。我。没。討。の。勇。み。て。競。ひ。蒐。る。と。血。戦  
 して。圍。を。違。れ。烏。夜。に。紛。れ。て。只。管。小。走。り。不。意。も。羽。正。山。小。迷。ひ。入。り  
 那。処。の。月。光。院。の。主。の。逆。て。相。識。鬼。子。を。以。て。縁。由。を。告。げ。お。は。り。く  
 舎。藏。れ。て。隠。居。り。る。小。鶴。岡大梵字の。城。より。追。捕。穿。鑿。小。敵。あり。と。听。え  
 一。の。月。光。院。主。の。計。ら。ひ。よ。て。貧。道。を。付。弟。と。し。七。名。を。觀。玄。と。更。め  
 比。せ。金。剛。禪。の。用。法。形。の。兜。巾。條。被。小。笈。法。螺。を。い。東。西。送。も。なく  
 之。具。ひ。て。餞。の。与。し。と。て。沙。金。十。兩。を。さ。惠。ま。れ。て。尚。云。々。と。教。示。は。れ  
 一。旨。あ。り。て。竊。小。連。峯。の。間。道。より。心。徐。小。遁。走。お。ひ。終。と。情。も。深。き  
 恩。師。小。別。も。愛。う。れ。ど。那。処。を。出。し。开。日。月。の。和。殿。が。故。里。を。出。お。り。と。  
 只。よ。大。槃。同。一。時。候。より。て。這。里。に。至。る。日子。も。些。鬼。の。遲。速。を。以。て  
 剛。才。相。草。兒。奴。輩。の。狼。藉。せ。い。の。負。乃。が。持。り。三。百。餘。金。を。襲。着。一。故  
 子。を。あ。れ。ば。宗。久。幼。く。て。宗。景。小。別。れ。し。を。送。し。識。面。談。い。死。れ。ど。骨  
 肉。の。恩。情。相。棄。れ。ぬ。兄。宗。景。へ。國。の。干。城。と。も。あり。ぬ。べ。死。和。原。を。吹  
 拳。ま。り。の。形。の。室。二。郎。が。絶。て。久。き。歸。國。の。家。裏。に。れ。不。優。さ。る。緯。あ







親父が出羽の侍候り  
浦上堂三郎夜出る  
の討きの用を免り



浦上宗久





づる雲の富貴をば圍り食ふ大欲心濡手て梁を一炊の夏の浮世小妻  
 を恋ふ牡鹿の角の束の間小為は始りける霜をて氷の刃に露の命  
 鮎てを消滅惡報の有とい知らぬ白雪の雲より上の大空に夏尚寒  
 き高峯の雲を浸て清純富士川を渡れば涼し小風の吹上の瀆を  
 流覽は清原由井を後よりて山の端に汲る日影も潮る倉澤を  
 過て利益を祈保る。薩埵嶺よりりる。嗚呼君を弑し國を奪ひ  
 村宗が宿昔の罪惡の餘殃も子も免れ必竟室二郎の親をが上  
 にもまじり何ぞ話説くある。楮數既は限を超れども。這里は速に説も  
 竭はれぬ。巻を更て後回の頭述ん。苟且傍像を前に出せを  
 以て看官その大概を想像せよ。

復讐言山石見英雄録第五輯卷之六 終



